

- | |
|-------------------------------------------------------------|
| 1. 特に効果的であり改善に資した事例
B. 円滑な学位授与の促進
①複数教員による多面的な指導体制の整備 |
|-------------------------------------------------------------|

特に効果的であり改善に資した事例について

B. 円滑な学位授与の促進

①複数教員による多面的な指導体制の整備

《人社系》

●信州大学経済・社会政策科学研究科経済・社会政策科学専攻

「双方向ワークショップ型地域作り社会人教育」の事例

(具体的に何を実施したのか)

院生の研究を個々の指導教員の指導に任せるだけでなく、研究指導を教員が集団で行う科目として「個人課題研究ワークショップ」を立てた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

「個人課題研究ワークショップ」は、フィールドワークが自分の研究に不可欠である教員2名が常時担当し、各院生の研究の途中経過発表など重要な節目の回には、専攻運営委員である教員2名も参加した。院生が複数の教員から多面的なアドバイスが受けられ、さらに、教員同士の討論からも学べるような科目とした。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

多様な観点から、自分の研究についての意見および指摘を受けることで、院生は作成する論文の練度を向上させることができ、多くの読者の批判に耐えうる論文を作成する一助となった。

《理工農系》

●東京工業大学理工学研究科地球惑星科学専攻

「研究者高度育成コース」の発展的強化」の事例

(具体的に何を実施したのか)

コース教員全員による指導体制を確立した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

コース協議会を定期的(少なくとも1ヶ月に1回)開催し、授業などを通じた学生の動向、今後の方針についての詳細な検討を行い、研究教育の進捗状況の情報の共有化を図った。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

複数教員による指導体制が確立したことにより、教員が指導する上での方針や過程について逐次情報を共有することになり、より綿密な指導体制をとることが可能になった。

- | |
|-------------------------------------------------------------|
| 1. 特に効果的であり改善に資した事例
B. 円滑な学位授与の促進
①複数教員による多面的な指導体制の整備 |
|-------------------------------------------------------------|

●総合研究大学院大学先導科学研究科

「全教員参加型博士課程教育の構築」の事例

(具体的に何を実施したのか)

一人の学生に対して3人の教員で指導教員団を構成する一方、専攻の全教員で全学生の研究進捗状況を逐次把握し、指導するしくみを構築した。

学生居室を研究室単位でなくオープンな構造にし、複数の教員あるいは他研究室のメンバーたちと日常的に会話を交わせる環境を整えた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

指導教員団には、専門分野の主任指導教員と副指導教員に加え、副論文の主任指導教員が副指導教員として加わった。

年2回のプロGRESSで、全教員と全在学生の前で研究の進捗状況を報告、質疑応答を行なわせた。プロGRESS後には全教員で各学生の研究進捗状況を議論、必要な指導方針を合議で決定した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

研究指導が研究室内に閉じることによる、いわゆる“タコソボ化”は起きていない。興味の変化に応じて、入学当初に所属を決めた研究室から、別の研究室に移る事例も複数あり、学生の希望や進捗状況に沿った研究指導ができています。

●九州大学理学府

「先端研究者と高度専門家育成の理学教育」の事例

(具体的に何を実施したのか)

大学院生ごとに選任した研究室外の教員を含む「指導教員チーム」のもと、研究計画の立案・実施、公開プレゼンテーション、研究の自己評価を行い、学位論文作成に向けて指導を受ける複数教員指導制度を導入した。これを学生が所属するプログラムに応じて、科目「リサーチマネージメント」、「リサーチアドミニストレーション」として各学年の必修単位とし、コースワークの中心に位置付けた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・学生と教員で教育効果を共有しあうために「学生の成長の記録」を残し、きめ細かな指導を行うようにした。「学生の成長の記録」は学生、教員が互いに閲覧できるようにプログラム推進室にて集中管理した。
- ・学際性を持たせるため、「指導教員チーム」は他専攻の教員を加えた「学際的指導教員チーム」とした。

1. 特に効果的であり改善に資した事例

B. 円滑な学位授与の促進

①複数教員による多面的な指導体制の整備

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・複数教員制度により、専門を異にする研究者を意識した研究成果の発信が促進され、学生の発表能力が向上している。たとえば、学生の国内外での学会発表数が、平成18年度の137件から平成21年度の270件へと増加した。
- ・指導教員チーム間の交流や、プログラムの全体研究報告会における人的・学問的交流を通じて、異分野のプログラム学生間や、理学府、さらには他学府や他機関も含めた教員間の交流が広がっている。
- ・「学生の成長の記録」を介した学生・教員相互のコミュニケーションにより、教員による学生の状況の理解、学生による教員の指導方針の理解が格段に促進された。

●九州工業大学情報工学府

「モジュール積み上げ方式の分野横断型コース」の事例

(具体的に何を実施したのか)

多面的かつ継続的な指導体制を整備することを目的とし、複数指導教員による指導体制を整備した。大学院入学時に各学生に対して主1名、副2名の指導教員を決める。学生は、各学期の初めに研究開発計画書を作成し、主副3名の指導教員に提出する。主副指導教員はその計画書を基に講義の履修状況と研究の進捗状況をチェックしアドバイスするなど、各学期ごとの定期的な指導を行う体制とした。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・複数指導教員制が実質的な効果が出るように、副指導教員を割り振るだけでなく、同時に半期ごとの研究開発計画書の提出の義務化を実施した。
- ・指導の記録が残るように、学生の提出した研究開発計画書に主副指導教員のコメントを記入する欄を設けた。
- ・多面的な指導を行うために、専門分野が同じ分野の教員だけでなく、専門分野が異なる教員も副指導教員となるような体制とした。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・複数指導教員制と半期ごとの研究開発計画書の提出を同時に実施したことにより、学生は多面的なアドバイスを得られることになった。
- ・半期ごとの研究開発計画書の提出の義務化により、学生自身が定期的に履修状況と研究の進捗状況を文章化し自己チェックする機会を与えることとなった。
- ・学生だけでなく、主指導教員も半期ごとに学生の進捗状況をチェックする機会ができたと同時に、副指導教員のチェックが行われるため、主指導教員自身の学生指導の自己チェックを行う仕組みにもなった。
- ・学生によるアンケート結果では、複数指導教員制に対して約77%の学生が「とても良い」および「良い」との回答をしている。

- | |
|-------------------------------------------------------------|
| 1. 特に効果的であり改善に資した事例
B. 円滑な学位授与の促進
①複数教員による多面的な指導体制の整備 |
|-------------------------------------------------------------|

《医療系》

●大阪市立大学生活科学研究科生活科学専攻食・健康科学コース

「地域ケアを担う Ph.D. 臨床栄養師の養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

病院や老健施設での臨床的問題に関して研究をする際、現場の医師、看護師、理学療法士など多職種のエキスパートの方に指導していただいた。また、患者の栄養学的状態と QOL の関連を解析する際には、当研究科の臨床心理学の教授より患者心理面の解析に関して指導を受けた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

臨床現場、介護現場で実際に起こっている臨床栄養学的課題を研究テーマにすること、実地の現場でそれぞれの分野の専門家にきめ細かい指導をしていただくことで、解析のレベルが格段に向上し、学会発表、論文執筆に際しても、それぞれ当該学会の要求するレベルに合致した発表が可能となった。当学会内のみで、管理栄養士という単一職種の教員、学生間のやりとりでは生まれなかった新知見を多数得ることができた。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

本プログラムで、多職種の方と共同研究を通じて積極的に交歓し、当該院生も得るところが非常に大きかったが、多職種の方にも管理栄養士の臨床栄養学的知識やスキルの重要性を理解していただく機会にもなり、職種間の垣根を越えた共同研究や共同プロジェクトが生まれ、病院や介護施設の活性化にも貢献した。

《非公表プログラムの事例》

●事例 1

(具体的に何を実施したのか)

後期課程の研究指導を複数の教員により実施するために、研究科が主催する研究成果報告会を年間 2 回開催するとともに、学生が主催し研究科ならびに外部の教員を招聘する研究会を毎月開催する体勢をプログラムコーディネータの指導で整備した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

研究科が主催する報告会と並行して、学生が主催する研究会を頻繁に開催する体勢を整備することで、研究科教員の多くがそれぞれの学生の研究に関心を持つように配慮した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

博士学位論文に必要な助言を複数の視点から迅速に行う事ができるようになった。学位取得の可能性についての研究科教員の判断が審査会までに徐々に形成されるようになった。その結果、博士学位の授与への抵抗感が軽減した。